

## ■ 会長挨拶

デジタルとアナログ、理論と実践。日本と世界。これらの健全なコンフリクトの中から、知の世界とその実践は発展してきました。それを組織として担うのが日本ナレッジ・マネジメント学会です。

日本ナレッジ・マネジメント学会は極めてユニークな学会です。学会員は企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者から構成されます。理論を磨き上げると共に、それをいかに実践につなげるかを重視します。ガバナンスも組織運営も企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者のチームワークで行われます。

日本ナレッジ・マネジメント学会はオープンで、フラットで、そして何よりも楽しい場 (intellectually fun!) です。知とその実践の最先端を切り開くために、より多くの方が会員になり、日本を、世界を、より良い社会にできればと願っています。

ぜひ、このような  
エキサイティングな場にご参加ください。



日本ナレッジ・マネジメント学会  
会長 一條和生

## ■ ミッション

○人間の持つ知識を総動員してナレッジ・マネジメントの研究とその実践をはかることにより、社会的課題の解決を図り、社会に貢献する

## ■ 2030年にむけたビジョン

○ナレッジ・マネジメントの研究と実践を志す個々人、組織が集う、オープンでダイナミックに進化するナレッジ・マネジメントのプラットフォームとなる。

○このナレッジ・プラットフォームを通じて、デジタルとアナログ、理論と実践、日本とグローバルのシンセシスを通じて社会的課題の解決に貢献する。

## ■ バリュー

○イマジネーション：学会員は互いの想像力を磨き上げる

○インクルーシブネス：学会員は異なる意見を退けず、異なる意見の統合から新しい価値を生み出す

○インテグリティ：学会員は高潔であり、公共善のために活動する

○オープンネス：学会員は環境に対して常に開かれている

○エガリタリアン：学会員は権威主義とは無縁で、全員がフラットで平等につながり、心理的な安心のもとに活動する

## ■ 主な役員一覧 (2020年8月8日現在)

会長  
一條 和生 (一橋大学大学院教授) \* 理事長を兼務

副会長  
加護野 忠男 (甲南大学特別客員教授)

評議員会議長  
飯島 彰己 (三井物産(株) 代表取締役会長)

評議員  
安達 一彦 ((株)インテリジェントウェイブ 創業者)  
佐久間 万夫 ((株)Eパートナー 代表取締役社長)  
常盤 文克 (元 花王(株)会長)

詳細な役員一覧はこちら

<http://www.kmsj.org/intro/page-28/>

## ■ 入会のご案内および会員種別

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する法人/個人であれば、特に入会資格を制限しておりません。志のある皆様のご入会をお待ちしております。

法人会員：年会費 一口につき100,000円 (入会金なし)

個人会員：年会費 8,000円 (入会金なし)

いずれも「入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛まで郵送下さい。登録内容通知書ならびに学会誌をご送付いたします。

⇒ご入会についての詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.kmsj.org/intro/page-30/>

## ■ 当学会へのお問い合わせ

日本ナレッジ・マネジメント学会事務局  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518 司ビル 3F  
国際ビジネス研究センター 内

TEL 03-5273-0473  
E-mail kmsj@ibi-japan.co.jp

⇒当学会HP  
トップページ <http://kmsj.org/>



### 日本ナレッジ・マネジメント学会

AIなどの情報技術の進展に加えて、Covid-19による新たな常態へのシフトは、グローバルビジネスや社会に大きなインパクトを及ぼしています。

このようなVUCAの時代において、人類社会や地球環境の持続性に貢献する新たなKMの理論と実践が不可欠です。

本学会はKMで世界と繋がり  
価値共創を促進するミッションを  
知の創造の場を通して果たします。

## ■ 学会誌の発行による研究と実践の推進

当学会は年に1度学会誌を発行しています。

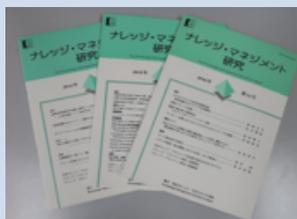
会員が投稿でき、投稿した原稿は、編集委員会のレフェリー2名による査読審査を受けます。投稿ジャンルは、論文、ケース・スタディおよび研究ノートです。

院生はじめ研究の実績を挙げていただくためのプロセスが整っています。学会に所属し、研究部会での発表、年次大会での報告、そして学会誌に研究成果を投稿でき、またこれらの研究成果の発表に伴い適切な助言やコメントが得られます。

論文とは、ナレッジ・マネジメントに関して、理論的、実証的に本学会の学術研究として相応しいオリジナルな研究成果をまとめたものであり、問題提起・方法論・分析結果とその理論的考察・明確な結論を備えていることが必要です。

研究ノートでは、先行研究を多数引用し、それらの成果や問題点について解説したもの、または、独自の調査やオリジナルな個別事例についての結果・報告です。ナレッジ・マネジメントの研究を進めていく上で資料的価値を認められることが必要です。

なお優秀な論文は、英文電子ジャーナルJJM誌への掲載を推薦しております。



## ■ 他学会、他団体との交流

当学会では、さまざまな国内外の関連学会および関連団体との積極的な交流を図っております。

– 参考リンク –  
経営関連学会協議会

<http://jfmra.org/>

KMGN (Knowledge Management Global Network)

<https://kmglobalnetwork.net/>

## ■ 年次大会における会員の学びと交流の場づくり

当学会は年次大会や研究発表会を開催しています。

### 第23回年次大会(内容が変更する可能性があります)

▼テーマ「ニューノーマル時代のナレッジ・マネジメント」

▽2020年11月21日(土) 09:30-17:00

▽オンライン (Zoom Meeting)

▽特別講演1 大阪大学社会ソリューション・イニシアティブ教授 堂目卓生氏

▽特別講演2 富士通株式会社、経済産業省、ほかを予定

▽会員によるフューチャーセッション

▽ほか、自由論題報告

### 第22回年次大会 (役職は当時のものです)

▼テーマ「AI時代のナレッジ・マネジメントのあり方」

▽2019年6月9日(日)

▽金沢工業大学KIT虎ノ門大学院キャンパス

▽特別講演1 経済産業省商務情報政策局情報産業課 ソフトウェア産業戦略企画官 博士(工学)和泉恵明氏

▽特別講演2 日本アイ・ピー・エム株式会社 理事/パートナー/AI コンピテンシーセンター グローバル・ビジネス・サービス事業部 鈴木至氏

▽ほか自由論題報告

### 第21回年次大会 (役職は当時のものです)

▼テーマ「イノベーションを起こす組織：知を創るプロセスを創る」

▽2018年5月26日(土)

▽立教大学池袋キャンパス

▽特別講演「知的機動力の経営 – 日本型イノベーションの本質」一橋大学名誉教授 野中郁次郎先生

▽ダイアログ1：「イノベーションを起こす組織：知を創る間接部門の機動力」西原(廣瀬)文乃氏(専務理事)

/ (株)LIXIL情報システム本部 Information Excellence部 村上修司氏/ 一般財団法人公務人材開発協会 菊池敦子氏/ (株)内田洋行 知的生産性研究所 平山信彦氏

▽ダイアログ2：「イノベーション企業にみるトップの役割」大西幹弘氏(副理事長)/近畿大学准教授 筒井真理子氏

▽ダイアログ3：「オープンイノベーションと価値創造」植木英雄氏(専務理事)/コニカミルタ株式会社ビジネスイノベーションセンター

ジャパン所長 波木井卓氏

▽ダイアログ4：「イノベーションを起こす組織を創る」高山千弘氏(専務理事)/富士通株式会社デジタルフロント事業本部長代理 柴崎辰彦氏

▽ほか自由論題報告

## ■ 研究部会のご紹介

日本ナレッジ・マネジメント学会では複数の研究部会がそれぞれにテーマを持ち、特色のある活動を行っています。お気軽にご参加ください。Facebookなどで発信もしています。

⇒研究部会の詳細はHPをご覧ください。

<http://www.kmsj.org/page-39/>

### 研究部会の一覧

部会名	部長名	代表世話人名
東海部会	大西 幹弘	西浦 道明
知の創造研究部会	植木 英雄	植木 真理子
実践ナレッジ・イノベーション研究部会	西原 文乃	穂積 義剛
ソーシャルメディア研究部会	荒木 聖史	町井 美也子
新産業革命研究部会	田原 祐子	田村 直樹
ISO等標準化研究部会	齋藤 稔	—
実践SDGs研究部会	高山 千弘	矢澤 洋一

### ■ 東海部会



「有力企業が集積する東海地区に根ざした実践的ナレッジ研究」として、次の3点から研究活動を進めています。現在、活動の拠点は名古屋近辺です。

### ■ 知の創造研究部会



創設から14年目を迎えた知の創造研究部会では、先進企業における知の創造がどのような要因や条件により促進されるのかを実践事例等より明らかにします。そこで企業内外の環境変化に適応した知の創造と経営革新のプロセスに関して先端事例研究等の発表で課題を捉えて対話します。

### ■ 新産業革命研究部会



一つのテーマに絞らず、AI、RPA、IoTを含め、「ナレッジマネジメント & 新たな分野・テーマ(新しいもの～これまでは組み合わせとしてなかったもの、古典的・普遍的など様々なもの)」という組み合わせで、毎回テーマを取り上げ、新たなナレッジマネジメントの可能性を問い発信していきます。

